平成30年度 群馬県立農林大学校評価システムシート

平成31年3月15日

目指す学校像	群馬県農林業の多様な担い手育成
重点方針	1 質の高い教育の実行 2 実績の上がる学生募集の実行 3 実績の上がる進路指導の実行 4 県民の期待に応えられる研修の実行

達成度	
	A 100%
	B 80%以上100%未満
	C 60%以上80%未満
	D 60%未満

番号	課題	現状	評価項目	評価指標(数値目標)	達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見
1	質の高い教育の実行	1 これからの群馬県農林業を支える人材を育成する県内唯一の公立農業系高等教育機関で、実践学習を教育の基本としている。 2 課題解決研究に取り組み、能動的に学ぶ力を育んでいる。 3 1年次は全寮制とし、寮生活を通して規律・協調・思いやりの精神を育んでいる。 4 29年度から「農業コース」を地域農業や6次産業化をマネジメントできる人材を養成する「農と食のビジネスコース」に、「森林・環境コース」を林業技術者の養成を重点とする「森林コース」に改編。また、担い手育成を強化するため、「野菜コース」「花き・果樹コース」の定員を増員した。 5 国際水準GAPを教育カリキュラムに導入し、農場等での実習を通して、農業生産技術に加え国際感覚を兼ね備えた担い手を育成している。 ※ASIA GAP認証 平成29年12月13日 (野菜コース:トマト、キュウリ、ナス、イチゴ)	・学生にとって分かりやすい授業の実施 ・学生がやる気と自信の持てる教育 ・社会生活の基本を身につける ・教育環境の充実	◎学生の授業満足度評価 「おおむね満足」以上 80%以上	・前期 コース専門科目15科目 (おおむね満足以上評価 71.2%) ・後期 コース専門科目17科目 (おおむね満足以上評価 83.3%)	B	・授業評価はよりよい授業を提供するため継続して実施する ・職場研修は職員の資質向上を図るため継続して実施する ・アクティブラーニングはプロジェクトを継続するとともに、各コースで1科目以上導入する ・全国プロジェクト発表会での発表を目指し、課題研究の計画段階からコース・全体指導を行う	・学生向けの研修などでは、野菜だけでなく畜産など幅広く農業を学ぶテーマを検討すること。 ・課題研究や懸賞論文については全国入賞を目指して、傾向と対策を分析して指導につなげること。
				◎ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ試行導入授業 8科目(各コース1科目以上)	・導入授業 10科目	A	・全国プロジェクト発表会の発表方法を参考に、発表方法を改善する ・学習意欲を高めるため、ヤンマー学生懸賞論文・作文等に積極的に応募する ・研修目的を明確にするとともに、事前指導を徹底し、受け入れ先とのトラブルをなくす ・GAP取組計画に基づき実施し、内部審査会でGAPレベルを維持、改善する ・特別講演会や販売学習は継続して実施する	
				◎課題研究・意見発表で全国大会出場 1名以上	・全国大会出場者 無	D	・開発した加工品の販売学習場所の検討 ・菓子類に加えて、そうざい、みそ加工の許可を取得し、6次産業化に関するプロジェクト等に積極的に参画する ・1分間スピーチは、より多くの学生に機会を設けられるよう検討する ・基礎学力を高めるため、補講は継続して実施する	
				◎懸賞論文等への応募者 1年生 100%	・1年生49名がﾔﾝﾏｰ懸賞論文に応募 奨励賞:2名受賞 応募者 87.5%	B	・褒賞・表彰等は学生のやる気を高めるため、継続して実施する ・精神的なストレスを抱える学生に対して、スクールカウンセラーの配置を検討する ・地域貢献活動は継続して実施する ・地域行事に積極的参加する	
2	実績の上がる学生募集の実行	1 入校生の定員は確保されていない状況(H30年度入校生73名/定員100名)にある。 2 近年の入校生の状況は、非農家出身者の増加(H30入校生:77%)、女子学生の増加(H30入校生:29%)が特徴となっている。 3 本校入校生の約6割が農業高校出身者(H30年入校生:66%)であり、農業高校との連携とともに、普通高校へのPRが重要となっている。	・農林大学校のPR ・農業高校との連携強化	◎オープンキャンパス 参加者数 実参加者150名 参加者の満足度評価 「 おおむね満足」以上90%以上	・オープンキャンパス参加者 実参加者(Ⅰ～Ⅴ)実149人延べ197名 (7/26:79名、8/1:51名、8/8:37名、9/1:15名、10/13:15名) ・参加者の満足度評価 「概ね満足」以上 93%	B A	・オープンキャンパスは学生が中心となった運営を継続して実施する ・高校訪問は農林大の魅力を伝え、学生を確保するため継続して実施する ・ホームページはタイムリーに更新し、SNSの導入を検討する ・学生の出身校への訪問は学生から寮生活の様子を伝えるため、継続して実施する ・農業高校との連携強化のため、会議や情報交換を継続して実施する	・ホームページやSNS等で積極的にPRに努めること ・実習中も経営についても意識して学習させ、農業の魅力をしっかり伝えること。 ・新規就農の支援を行政と連携してしっかりフォローすること
				◎高校訪問 70校 2回実施	・6月、9月(2回)※68校合併により2校減少	A		
				◎HPの更新回数 100回以上	・更新回数 107回	A		
				◎入校生の確保 75名以上	・入校予定者 86名(3/11現在)	A		
3	実績の上がる進路指導の実行	1 H29年度卒業生の進路決定率は100%で、進路決定者のうち就農40.3%(森林コースを除く48.9%)、就職56.5%、進学3.2%であった。農林業団体への就職が良好であったことが特徴である。 2 森林コースを除く就農率は、近年40～50%となっている。うち雇用就農は50～60%で雇用就農者が増えている。	(1年生) ・進路希望の把握と進路指導体制の強化 (2年生) ・きめ細やかな進路別指導 ・専門資格取得教育の強化				・学生の進路指導のため、定期的な個人面談を継続して実施する ・就農相談会等の情報提供を行い参加を誘導する ・特別講演会は農業の魅力を伝えるため継続して実施する ・農業法人、農業経営士、農村生活アドバイザー、農林大OB、フロントランナー卒塾生、農業女子など多くの先輩農業者から学ぶ機会を設ける ・学内企業説明会(農業法人含)を開催する ・日本農業技術検定の合格率が全国平均より上回るよう、次年度は指導方法を改善し合格率を高める	・就農率は50%を目標にする。 ・ぐんま就農相談会への参加などの取り組みを継続してほしい。 ・わな猟免許などの様々な資格取得を積極的に推進すること。
				(2年生) ◎進路決定率 100%	・進路内定率 100%	A		
				◎就農率 50%以上	・就農率 29.1%	D		
				◎林業関係の就業率 60%以上	・就業率 69.2%	A		
				◎日本農業技術検定(2級)の合格率 30%以上	・前期合格率 24.5%(全国平均16.2%) ・後期合格率 14.3%(全国平均20.6%)	C		
				◎合格率 毒物劇物取扱者 30%以上 危険物取扱者(乙4類) 30%以上 農業機械系資格 100%	・毒物劇物取扱者 0% ・危険物取扱者乙4 72.7% ・機械系資格 100% (大型特殊農耕車限定、フォークリフト、建設機械)	D A A		
4	県民の期待に応えられる研修の実行	1 「野菜専門技術課程」「野菜基礎技術課程」「農業体験講座」の3課程を設け、うち「野菜基礎技術課程」を5コースに細分し、実施している。H29年度は、定員を超える応募(190名/145名)があったが、平成30年度「野菜基礎技術課程」の定年帰農者コースは定員に達しなかった(24名/25名)。 2 農業機械研修は、大型トラクター免許取得研修、作業機械研修、安全研修等を実施している。最近の傾向として高齢者、女性、雇用就農者の受講希望が多くなっている。 3 公開講座(平成30年度)は、果樹、花き、野菜づくり、梅加工、農業機械の9講座、13回の開催を計画している。	・多様な研修ニーズに対応した「ぐんま農業実践学校」の運営 ・県民ニーズに対応した農業機械研修の実施 ・農林業に対する理解を深める公開講座の開催	◎実践学校研修生の満足度評価 「おおむね満足」以上 90%以上	・評価「おおむね満足」以上 修了課程の平均 96%	A	・就農に向け、研修生の意向に沿った研修の継続 ・次年度農業体験講座の募集方法を随時募集に改善・メディアを利用した広報を継続して行う ・意向を考慮した再編案について継続して検討する・JA等と連携して、担い手育成の取り組みをさらに進める ・大型特殊自動車運転免許(農耕者)等取得研修の充実・女性農業者を対象とした研修を継続する・農業事務所等からの研修要請について、引き続き対応する ・次年度は、受講者の要望(アンケート結果等)を考慮して下記10講座を予定する 前期:果樹の基礎技術、刈払い機の基本操作 果菜類の仕立て方、秋冬野菜つくり 後期:野菜栽培の基礎知識、小型管理機の基本操作 うどん打ち、果樹の整枝・剪定 春夏野菜づくり、花き栽培を楽しむ	・研修生には今後も仲間作りを積極的に勧めてほしい。 ・女性の受講者については、今後も継続して実施し、遠方へ出向いての研修実績も含めてたほうがよい。
				◎実践学校研修生の定員確保 100%	・入校者数/定員 136/135名 定員充足率 101%	A		
				◎野菜専門技術課程就農率 100%	・就農率 95% (18/19名)	B		
				◎大型特殊自動車免許等取得 合格率 100%	・免許取得 合格率 大型トラクター基礎研修(100%:7回) 大型トラクターけん引研修(100%:2回)	A		
				◎女性農業者基礎研修(Ⅰ・Ⅱ)の受講者数 2回/40名	・女性受講者数 2回/24名	C		
				◎農業機械安全研修の開催回数と受講者数 15回/150名	・安全研修開催数と受講者数 20回/278名	A		
				◎公開講座受講生の満足度 評価「おおむね満足」以上 90%以上	・受講生の満足度 全9講座「おおむね満足以上」 91%	A		